



防犯・防災と観光ホスピタリティ



それぞれの観光地が持つ課題

京都：

- ・マナー問題
- ・一部の観光地への集中
- ・環境負荷が大きい観光

淡路島：

- ・アクセスの不便さ
- ・通過型観光地
- ・情報発信力の不足

赤穂市：

- ・観光地としての認知度不足
- ・観光資源の多様性と新たな戦略の不足

現地で学んだ現在の取り組み

- ・ライブカメラや混雑予報サービスの活用
- ・ポスターや動画多言語案内スタッフでの啓発活動
- ・ゴミ箱の設置や清掃強化、自転車や徒歩による観光の推進

- ・体験型観光などの提供による滞在型観光作り
- ・島内の交通手段の整備や情報提供の強化
- ・PASONAとの連携、アニメを活かしたプロモーションや大阪万博に合わせた魅力の発信

- ・日本酒などの特産品を使ったプロモーション
- ・赤穂市の地理的歴史的な特色と利点を活かした観光体験作り
- ・観光バスなどのアクセスの強化

新たな取り組みの提案

- ①アジアからの観光客をターゲットにした京都ツアー旅「伊根、下京区、舞鶴、宇治」によるオーバーツーリズムの解消
- ②VRやARなどのDX活用によるオーバーツーリズム解消と観光の快適さを創出
- ③地方観光地の活性化のために観光施設だけでなく伝統的な体験活動「農業体験、禅体験、伝統的な日本家屋への宿泊など」の提供

防犯・防災からホスピタリティへどのようにつながるか

人と防災未来センター

- ・阪神淡路大震災の経験と教訓を後世に伝える
- ・未来の防災・減災を目的とした防災学修

曾根崎警察署

- ・梅田の治安の維持と犯罪の未然防止「イエローロード」
- ・防犯カメラ設置やパトロール、交通整備、周辺地域との連携

兵庫県災害対策センター

- ・あらゆる自然災害に対し24時間体制で警戒、的確で迅速な被害状況の把握と情報収集、関係機関「気象庁やインフラ事業者、各市町」との連絡調整



学び×観光＝防災ツーリズム
多言語対応の展示や防災知識を通しておもてなし+安心と安全を提供し、「災害に強い観光地」というイメージの形成

治安維持が観光客の快適さ、信頼感、安心と安全が**目に見えないホスピタリティ**や「また来たい」を創出、観光の活性化に繋がる

災害時の対応が観光地としての**信頼性向上**に直結し、危機管理体制の整備は**観光誘致**の大きな利点になり、安心して観光を勧められる。